

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和 6 (2024) 年 2 月号

編 集 武田 隆久
発 行 人
〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15
一般社団法人 日本病院会 事業部教育課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)
URL <https://jha-e.jp/>
受付時間 10:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)
発 行 日 毎月 1 日

生成 AI と、どの様に対応すべきか？

福島 明宗

岩手医科大学附属病院 医療情報管理部長

岩手医科大学医学部 臨床遺伝学科 教授

日本診療情報管理学会 生涯教育委員会 委員長

基礎課程小委員会 委員

生成 AI なるものが 2023 年に入り急に世の中を席卷し始めた。1 番有名なのは ChatGPT であるが、現在数え切れない程の生成 AI がデビューしている。世界中で生成 AI の利・活用に関する議論が活発に行われているが、日本での利用規制に関する議論の立ち後れが海外から指摘されている昨今の状況である。

さて医療分野における生成 AI の話題である。生成 AI は医療に特化した学習をしていないにも関わらず、特に ChatGPT は米国の医師試験合格レベルに到達しているとの論文発表もあり、それだけでも驚きであるが、さらに医療に特化した生成 AI も既に生まれているとの事である。医療分野に特化した ChatGPT は大規模言語モデルを用いたツールであり、すでに米国の一部の医療機関では試験的に導入済みとのことである。まず各種臨床情報を入力すると、それに基づいた鑑別診断、必要な検査、さらには治療法の提案まで行ってくれる優れたものであるらしい。臨床で 1 番大切なのはコミュニケーション能力であると言える。傾聴、共感、受容的態度は患者満足度に大きな影響を与え、この点では生身の医師に勝るものはないと考えるかもしれない。しかし、AI (敵?) もさるもの引掻くもの、JAMA internal Medicine 誌での研究成果によると、生身の医師と ChatGPT の比較では、「回答の質」「回答の共感性」いずれにおいても ChatGPT が勝っていたとしている。これらはあくまで文面上での比較検証ではあるが、できあがった文書を人型アバターにでも話させるようにすれば、多くの患者は違和感なく生成 AI 医師の方を選択するのではないかと感じられる。直接患者に接する治療行為、例えばさすがに手術などは出来ないのではと考える向きには「ロボット支援手術」とのリンケージを忘れてはいけない。そうすると近未来の医療の形はどうか？ 1) 生成 AI による問診と鑑別診断の提案 ⇒ 2) 医師の追加問診と身体所見診察 ⇒ 3) 1)、2) で得られたデータから生成 AI が検査プランを提示 ⇒ 4) 検査結果から生成 AI がアセスメントと治療プランの作成 ⇒ 5) 医師が、患者の社会的背景等全体像を考慮して治療プランを修正 ⇒ 6) 生成 AI が共感的態度を組み込んだ患者家族への説明文を作成し、医師はそれを元に説明を実施。すなわち医師は生成 AI が考えた内容の修正や調整、患者家族への説明責任を担うことになると考えられる。すなわち、これからは生成 AI 対 医師の対立関係ではなく、医師が上手く生成 AI を活用していく新たな医療連携の形が期待される。診療情報管理においても ICD-11 導入が近々行われるにあたり、いわゆる「人工知能」の利・活用が益々求められる時代に入ってきた。皆さんはこれらの動きについて行けるであろうか？